



t o i o (トイオ)で楽しくプログラミング!

町の小中学校は、令和2年度から「GIGAスクール構想」の実現に向けて、ICT環境整備に力を入れています。その一環として、菊陽西小学校では、3月までに、ロボット「t o i o (トイオ)」を使ったプログラミング学習に全学年の児童が取り組みました。町ICT支援員の先生の協力もあり、遊び感覚で、楽しくプログラミングの基礎を学んでいます。

2月末に一人一台児童用タブレットも導入され、子どもたちも喜んでいきます。今後活用を増やしながら、子どもたちの学習に役立てていきたいと思っています。



楽しくプログラミング的思考を身に付けています!

友と来し高原の駅に雪白し玉に固めて遠く放れり
 大型のトマトの安値続きおりもうすぐ我が家も出荷となるに
 ひと筋の雲を残して飛行機はあえかに消ゆる空の青さに
 和歌を軸に土佐の日記は書かれたり喜怒哀楽の姿うつして
 枯れ草の中にさがせる露の蓋固く閉じて明日はほぐれむ
 遙かなる水平線より打ち寄せる波は静かに舟揺らしたり
 公園の鉄棒少しかたいけどくるとできた逆上がり

短歌会

- | | | | |
|------------------|-------|-----------------|-------|
| トネルの先の光や阿蘇の春 | 田島 三間 | 四つ割りの白菜眩し里の村 | 財津 早雪 |
| 古木でも艶やかに咲く寒椿 | 宮川ユキエ | 三日月の輝く夜明け春隣 | 原野レイ子 |
| 山眠る阿蘇の煙も爛やかに | 紫藤 祥子 | もてなしの菓子もマスクで食難し | 寺尾千代子 |
| 母の味祖母の味なる恵方巻 | 曾我 育代 | 花と葉の称へ合ふなり白椿 | 高橋 孝子 |
| 日々見上ぐこよなき色に紅椿 | 曾我トモ子 | 節分や鬼もコナ禍逃げまわる | 福田 貴子 |
| 春近し知恵の輪くるり葛笠 | 緒方チエ子 | おかつばの少女はすぐと卒業す | 北川しんじ |
| すきま風築九十年を守り抜き | 米山るみ子 | 数の果てうすき日の射す野梅かな | 田中 郁子 |
| 節分やネギト口巻きを丸かぶり | 吉田 幸子 | 新しき大橋点燈春隣 | 佐藤 澄世 |
| アラームのスマホにセット寒夜かな | 木村 信子 | | |

菊陽句会報

きくよう文芸

- | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 松本 東亜 | 馬場 礼子 | 中村トシエ | 中村 正市 | 佐藤せい子 | 梅田 國雄 | 有久 賢治 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|

ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば 144

人権啓発標語 「わたしたち 心と心は 密がいい」

菊陽南小学校 4年 米満 由依(現在5年生)

みんなでがんばっていること



なかよしのともだちと (作者は左から2番目)

わたしは、一の三のきょうしつにいるとたのしいです。一の三はおもしろいばかりでいいなとおもいます。休みじかに、ともだちとおしゃべりをしたり、ドッジビーをするのがたのしいです。いまは、みんなで大なわたいかいのれんしゅうをがんばっています。ゆうしょうしたいです。

菊陽西小学校 1年 大串 美晴(現在2年生)

(担任より)
 今年度は休校もあり、学校では多くの制限がある中で、工夫しながら、さまざまな活動を行っています。そして、友だちとともにふれあい、活動する中で大切なことを学んでいます。
 一年生の子どもたちも、クラスで昼休みにドッジビーをしたり、大なわとびをしたりして遊んでいます。
 できなかったことが、友だちの声かけやほめまじりでできるようになったり、それを喜び合ったり……。みんなで成長しています。

「家庭内人権学習」を

～人権問題、人権学習を家庭の日常の話題に～



私の家庭でのことです。休みの日に私の連れ合いが絵本を作製していました。下絵ができあがり色を塗る段階になった時、「肌色の鉛筆をとってこない!」と声をかけられました。私はどれを渡せばいいのかと戸惑っていました。「どうしたの?」と尋ねるので、「肌の色っていろいろあるからね。」と答えると「えーっ」という感じでした。「これまで何気なく肌色として使っていた色には、今はパールオレンジとか、うすだいたいという名前がついているんだよ。」「へーそうなんだ」というやり取りがありました。また、別の日に、テレビを見ていたら、ある芸能人の結婚報道があり、芸能人の方が「〇〇月△△日に入籍しました。」と語っていました。「入籍するという言い方ってそれでいいのかな?」「いいんじゃないの、結婚したってことでしょう。」「結婚した2人が婚姻届を出した場合、新しい戸籍をつくるのであって、女性が男性の戸籍に入籍するのではないんじゃない。だから、「入籍」しましたは違うんじゃないか。」といった会話にもなりました。年末には「今年の流行語大賞候補に『ソーシャルディスタンス』が選ばれました。」とニュースになっていました。「人と人が密にならないように間隔をとろうということみたいだけど、この言葉の本来の意味は何だと思う。」「社会的な距離ということかな。」「実は、この言葉はインドにおいて『不可触民(インド社会における被差別民衆)』と距離をとるという「ルール」としての言葉として使われてきた歴史があって、その「ルール」を破った場合「排除、差別、屈辱、はく奪」を当然とするインド社会の生活のきまりとして維持されてきた、社会的な関係を遠ざける意味がある言葉なんだ。インドでこの問題に取り組んでいるひとから「ソーシャルディスタンスをとる」は不適切だと問題提起されているんだよ。」「そうなの、どんな言葉で言えばいいの。」「セーフティ・ディスタンス(安全な距離)をとる、身体的な距離の確保、適切な距離を保つ」といった言葉で言ったらいいんじゃない。」ということで我が家庭では使われなくなりました。まだ、「ソーシャルディスタンス」という言葉は見聞しますが、以上のような意味も考えると聞こえ方は違うと思います。

毎日のように人権に関する問題が新聞やテレビで報じられています。最近の新聞の見出しにも「すべての子が楽しめる遊具を(12月20日)」、「各所に消毒『私は地獄』化学物質過敏症の熊本市男性(12月20日)」、「無戸籍の高齢女性が餓死(12月26日)」、「57歳母と24歳息子何が死を招いた(1月11日)」、「帰れぬ実習生1000人超が無職(1月21日)」、「感染症法成立『罰則が差別を助長』『実効性担保に必要』(2月4日)」、「制服ズボン、スカート『選択式』(2月1日)」、「入学願書 性別欄の廃止進む(2月8日)」、「カカオ栽培 児童労働の温床に(2月14日)」、「アイヌ文化 子どもと学ぶ(2月18日)」などがありました。

家族の中で、それらの人権問題について、気になった時に話されてみてはどうでしょうか。子育てにも、生命の大事さを自覚するためにも、人権感覚を豊かにするためにも有益だと思います。